




第2回Green Hospitality Osakaシンポジウム
花と緑の感動創造企業から地球環境企業へ
「生活者コミュニティアプリとDXによる花と緑に溢れたまちづくり戦略」



株式会社 日比谷花壇
代表取締役 宮嶋 浩彰
2021年11月19日

日比谷花壇グループの事業の広がり ~花とみどりを通じて、もっと彩り、心豊かなものに~



チーム「花と暮らし」



フレネットHIBIYA

Land
flora

impression flora
インプレッションフローラ




///
INNOVATION
PARTNERS



チーム「みどりと環境」





花とみどりには、1人ひとりの暮らしを、明日を、
より良く変えていく力がある。そのかぎりのない価値の輪を、
もっともっと多くの人に広げていきたい。
日比谷花壇は、世の中のさまざまなものに、私たちならではの
発想を掛け合わせ、枠を超えた挑戦を続けていきます。
すべての人の明日を、影るために。

すべての明日に、
はなやぎを。

事業の広がり ~花とみどりを通じて、もっと彩り、心豊かなものに。

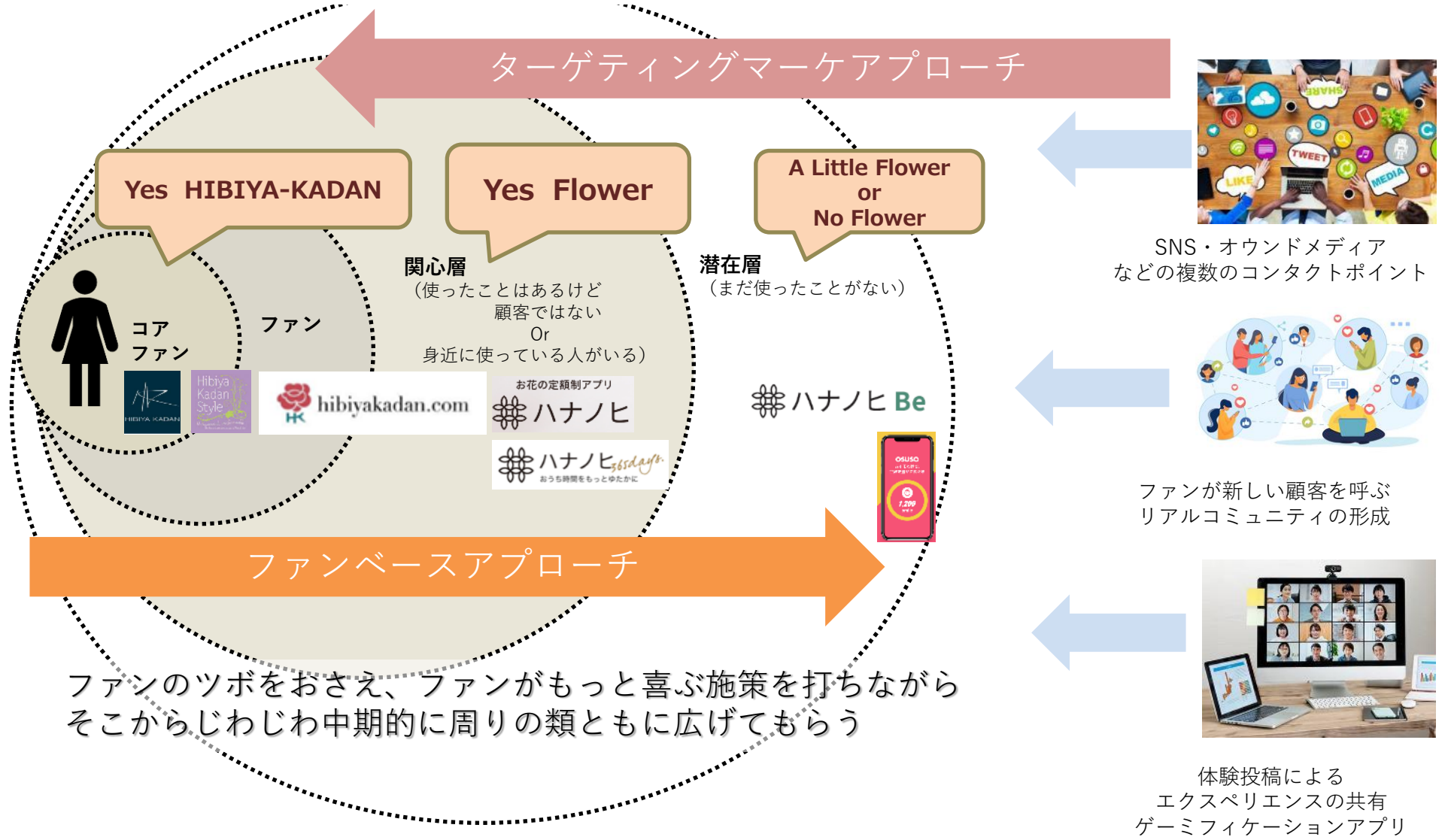
HIBIYA-KADAN

すべての明日に、はなやぎを。



花と暮らし、ファンマーケティング。

ファンとのコミュニケーションをベースにして中期的に顧客価値を高めてゆくこと



※図表参照出典：ファンベースなひとたち ファンと共に歩んだ企業10の成功ストーリー / 佐藤尚之、津田匡保他著

日比谷アメニス ～緑と地球環境、SDGsマネジメント～

「Amenity Scape Creation=快適空間の創造」の企業スローガンと、
「みどりと夢をみる」のコーポレートメッセージを理念として、
みどりに関わるさまざまな事業を展開しています。



- 造園施工**

日本庭園から都市公園・スポーツ施設・マンション外構・商業施設まで多様な緑地を創造します
- 緑地メンテナンス**

中長期的な管理計画により美しい景観を創り、緑地の資産価値を高める植栽メンテナンスを提供します
- PPP**

公的機関と連携して、公共施設の企画運営・維持管理を担います
- 緑化製品**

日々変化する社会からのニーズに応えるために、緑化製品を開発・販売しています
- 再生可能エネルギー**

木質バイオマスを用いたエネルギー活用における課題解決策を提案します
- みどりの環境リニューアル**

多種多様な緑地の施工経験を活かし、次代のニーズに即した空間として改修提案を行います
- 遊休地活用**

民間所有地（緑地や外部空間）の資産価値を高める活用提案から運営までお手伝いします
- 屋上緑化**

建築物の屋上に緑地を創出し、環境づくりの新たな可能性を引き出します
- 壁面緑化**

構造物の壁面を多様な植物で覆い、都市にみどりを創出します
- 室内緑化**

屋内という特殊な空間に、独自の技術を用いてみどり環境を提供します



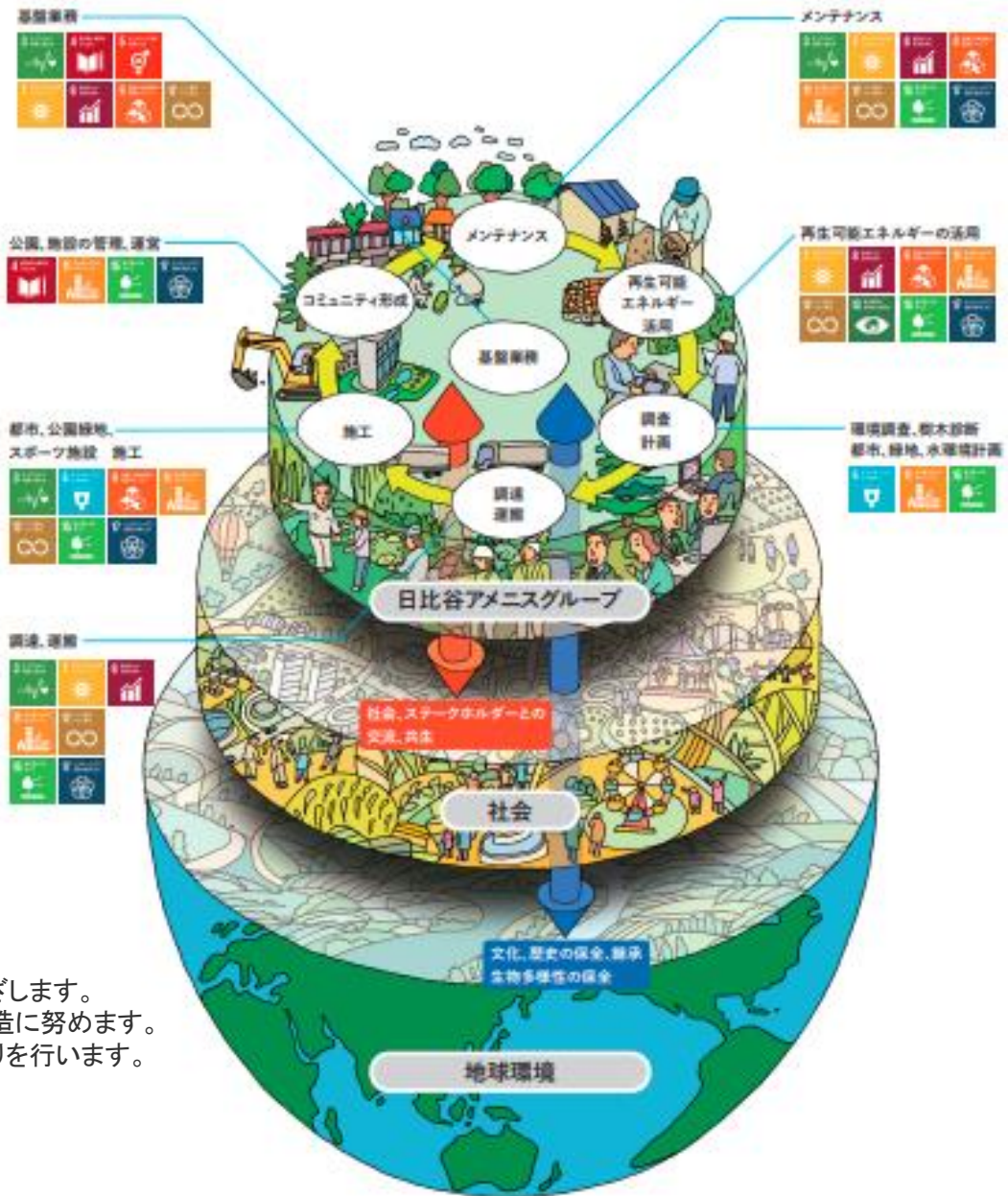
日比谷アメニス ～緑と地球環境、SDGsマネジメント～



環境宣言

私たちは、花とみどりのちからを活かして、持続可能な社会を実現するため、次の五つの行動に取り組めます。これらの行動を通じてSDGsの達成に貢献します。

- 一、「花」と「みどり」に彩られた人々に愛される空間をつくります。
- 一、多様な人々と力を合わせ、世界に誇れる美しい街づくりをめざします。
- 一、地球環境問題を解決するための、商品・技術・サービスの創造に努めます。
- 一、地域の歴史、風土、生物多様性に配慮した「もの」「こと」づくりを行います。
- 一、これらの行動を通して、持続可能な社会づくりに貢献します。



■ビジネスモデル紹介：生活者コミュニティアプリ戦略。

事例紹介：ファン作りのための新たな施策＝ハナノヒアプリについて



●ハナノヒは全部で6種類のプランからなります●

ココハナプラン	ツムハナプラン	ハナハナプラン
月6回まで1回1本 対象の切り花から選べる	月6回まで1回900円まで お好きな切り花選り放題	月6回まで1回3,000円まで お好きな切り花選り放題
月額 987円	月額 2,687円	月額 8,787円
イクハナプラン	サクハナプラン	イコーハナヤプラン
毎日1回1本 対象の切り花から選べる	月6回まで1回1,300円まで お好きな切り花選り放題	月6回まで1回6,000円まで お好きな切り花選り放題
月額 1,987円	月額 3,987円	月額 15,878円

もっと気軽に、日々の生活でお花を楽しんでもらいたい。そんな思いを込めて、展開をしているのが、お花の定額制アプリ「ハナノヒ」アプリです。アプリ上でプランをご購入いただき、店舗でQRコードを読み込むだけで、毎月決まった分お花を受け取れるお得なサブスクリプションサービスです。お花のボリュームや頻度に応じて6つのプランをご用意していますので、暮らしにお花を気軽に取り入れたい方から、思う存分楽しみたい方まで、幅広くご利用いただいています。

TOPIC



今月、成熟した社会を豊かにする新商品やサービスに贈られる「サライ大賞2021」のライフスタイル部門賞を受賞いたしました。

※その他の受賞

【ライフスタイル部門】

- ・キリンホームタップ
- ・せんべろメーカー

【カルチャー部門】

- ・伊能小図副本
- ・ゴルゴ13
- ・ピクトグラム

【地方創生SDGs部門】

- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島
- ・北海道・北東北の縄文遺跡群
- ・トヨタ自動車MIRAI

【定量実績】

①交換拠点数（メンバーストア数）：213店（10月末実績）

- （内訳）
- ・直営店：66店舗
 - ・非直営店：147店舗

②交換回数実績 累計：**300万回**（2019/6～2021/10）

月間累計：12万回（10月末実績）

③アプリ会員実績

累計アプリダウンロード数：7万回（2019/6～2021/10）

現アプリ会員登録者数：38,014人（10月末実績）

現アプリ課金者数：9,514人（10月末実績）

事例紹介：生活者コミュニティアプリ戦略。

自分らしく、
こころよく。
#hananohibe



○誰に：日々の生活の中で、花のある暮らしが習慣化していない層へ

○何を：アプリを通じ花の理解を深め、花との距離を近づける。
コミュニケーションプラットフォームを提供する。



主なコンテンツ・機能



気軽に暮らしに花を。もっとフィールドへ。



6.8万投稿

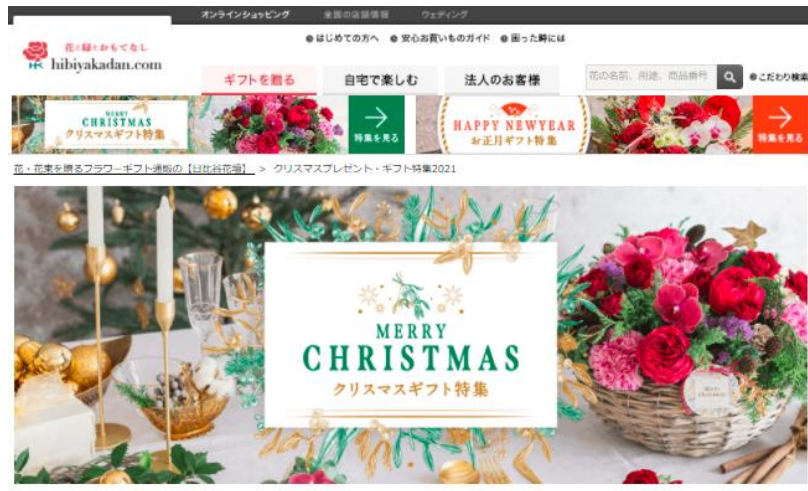


6.1万投稿
(Tw4.4万+Rt1.7万)



ドネーションアプリ：利他の心でつながる社会貢献。

事例紹介：hibiyakadan.comについて



■ サイトのPV：55,426,961人

■ サイトのユニークユーザー数：16,134,765人

■ コンバージョン率：1.29%

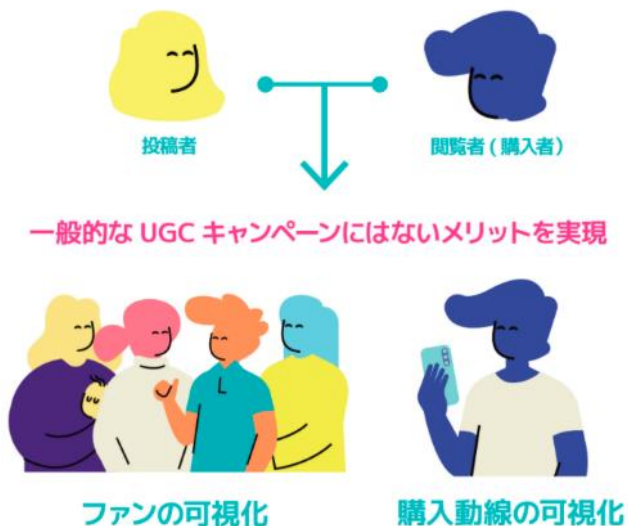
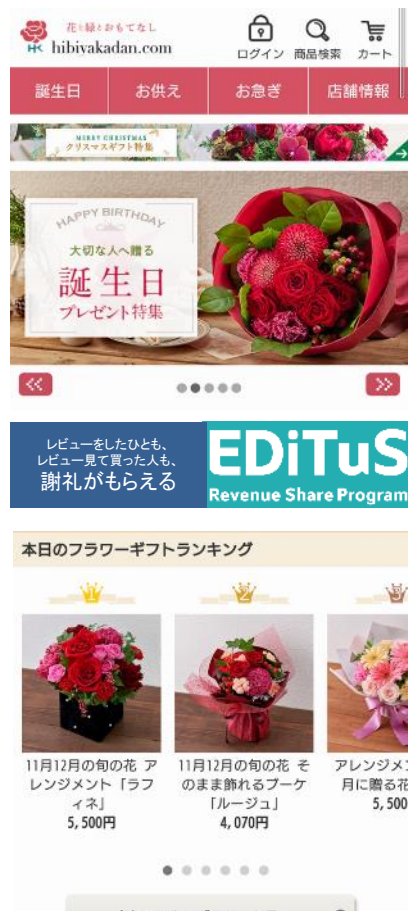
■ 購入数：220,396個（前年比：122.2%）
 （内 個人：210,549個（前年比：122.6%） 法人：9,847個（112.9%））

■ 平均購入価格：6,691千円

※2020年10月～2021年9月までの1年間の実績

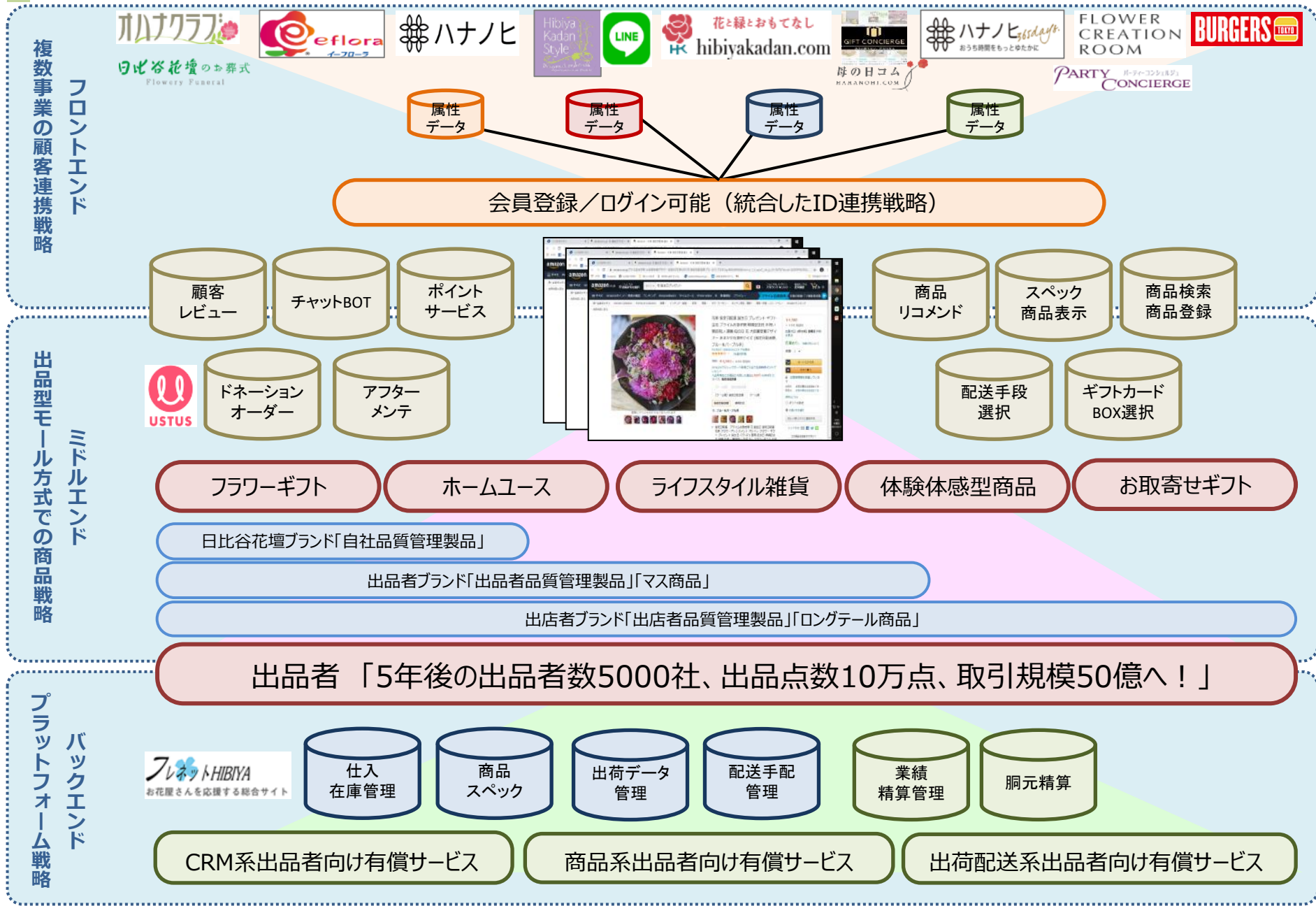


事例紹介：ファン作りのための新たな施策 = 今後のhibiyakadan.comの施策。



購入者がファンとなる過程において、自身が購入した商品をどう使ったのか、使ったエクスペリエンス（買い物体験と生活者体験の両方）を投稿する。生活者のエクスペリエンス投稿を見て、新しい顧客に動機付けがされる（ファンが新たなファンを呼ぶ）オンラインコマースエンジンをAPIで導入予定です。

事例紹介：HKCOMを出品型モールサイトへ変革、自社ブランドを業界内外へ開放





AN EXAMPLE

社会貢献型マーケティングの実例

18%

リピーター顧客による
エンゲージ率が向上

15%

来店顧客数の向上

約200

万円

2年間の寄付実績

利他の心で強くつながる顧客体験により
6万6,000食の支援が可能に

月間4,000人の来店顧客のうち、80%以上がおすそに参加。
結果、リピーター顧客によるエンゲージ率が10%向上し、来店顧客数が15%
向上。1店舗において2年間で約200万円の寄付により、
6万6,000食の給食支援に成功。(1食30円換算)



CONFIDENTIAL

事例紹介：生活者コミュニティアプリ戦略。



WHO WE ARE

OSUSO ってなに？

「おすそわけ × 寄付」で
個人と企業の社会貢献を可視化し
新しい社会的価値を創造する
世界初のSXプラットフォームです

社会のために何かできることをしたい
でも何から始めたら良いか分からない
まずは、おすそわけから始めよう
おすそわけ × 寄付で
新しい社会貢献ムーブメントへ



P10

CONFIDENTIAL

OUR SERVICE

OSUSO のおすそわけプラン

①エコおすそ

地球にも、
社会にも優しい、おすそわけ

フタ、ストローいらないの？
ならOSUSOで寄付する？

エコな活動で、何か社会貢献がしたい。
OSUSOなら、お買い物やお食事で使う
ショッパーやドリンクカップ、ストロー
など、店舗が無償でサービス提供している
もので、顧客が使わないのでいらない
と思っている本来使用されるはずの資材
原資を活用し、原資相当額の寄付を通じ
て企業の社会貢献を可視化し、ブランド
価値を向上させることができます。
グリーンライフポイントを貯めるのでは
なく、社会のために寄付するという利他
の心でつながる新しい社会創造へ。



OSUSOユーザーの場合



店舗スタッフが
ボタンを打ち込み
QRを提示

ユーザーがQR読み込
み、寄付分の社会貢献
マイルsmileを付与



店舗ごとに付与したスマイル数に応じて
店舗からOSUSO経由で寄付へ
※例えば、月間1万スマイル付与した店舗の場合
1万円をOSUSOへお支払いし、
運営費を除いた分を寄付いたします

OSUSO持っていない場合



寄付ですね。
ありがとうございます。
アプリダウンロードとQR読み込
みで、ご自身で寄付に参加でき
ますがいかがですか？もちろん
お店の方で寄付しておくこと
もできますよ。

①ダウンロードして顧客が寄付

そうですね！
ダウンロードしています。

②お店が自動寄付

寄付先はお任せします！
寄付しておいてください。



CONFIDENTIAL

WHAT WE CAN DO OSUSO ができること



顧客一体型の社会活動モデルのDNA導入により、思想で選ばれるブランドへ

社会貢献活動は、企業主導から顧客主導へ。
OSUSOという社会貢献ツールを携帯し、日常のお買い物やお食事の経済活動の中で、顧客が自由に寄付先を選び社会貢献に参加する、企業がそれを支えていく。顧客一体型の社会貢献活動がOSUSOを通じて可能になります。社内外の様々な人たちを巻き込み、ビジネスでも社会貢献活動でも価値を還元していく。ビジネスと社会貢献を統合したOSUSOの「おすそわけ」を通じて、さらなるポジティブ・インパクトを生み出すことができます。

地域社会における感謝経済の創造



お店、施設、地域社会における感謝経済の創造により、社会的価値が向上

街でのお買い物やお食事のついでに、OSUSOを通じて地域の社会活動を応援。街を楽しむことが、地域が必要とする支援になり、楽しむ人にも地域のお店からありがとうのおすそわけギフトが届く。地域を巻き込んだ感謝経済を実現することができます。

CONFIDENTIAL

■ ビジネスモデル紹介：エコルの社会問題解決の取り組み

事例紹介：人が緑が共演する次世代環境の構築の取り組み。

安全・健康な緑



にぎわいを生み出す名木・花修景



これらはとても大切なもの

地域資産



観光資源

それが今、危険にさらされています!!

事例紹介：人が緑が共演する次世代環境の構築の取り組み。

都市樹木が抱える問題
大経木化/過密化



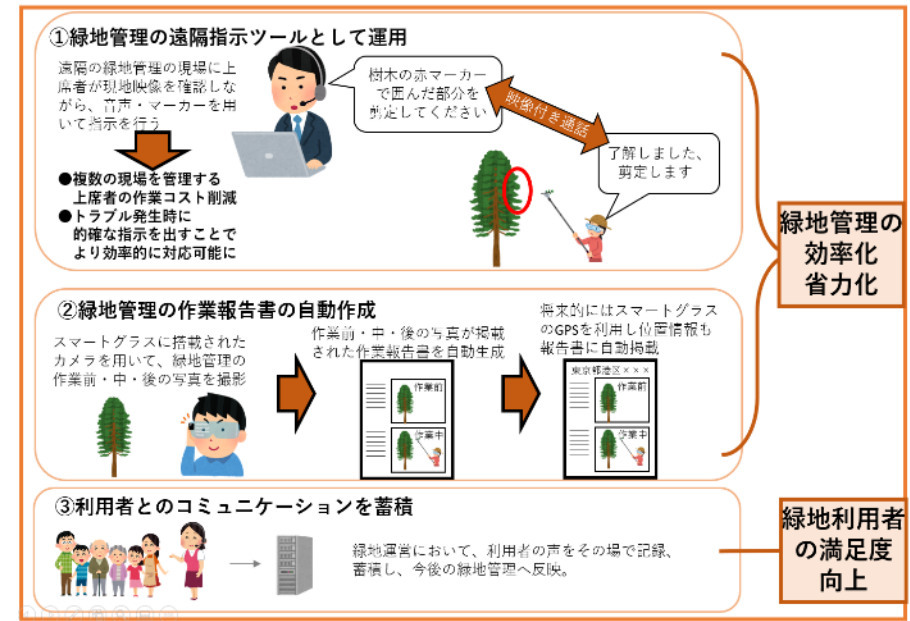
気候変動の影響
倒木/カシノナガキクイムシ発生



ICT を活用した課題解決スキーム



- 市民による調査パトロール・報告
- 行政によるリスクマネジメント
- プロ樹木医の指導・育成

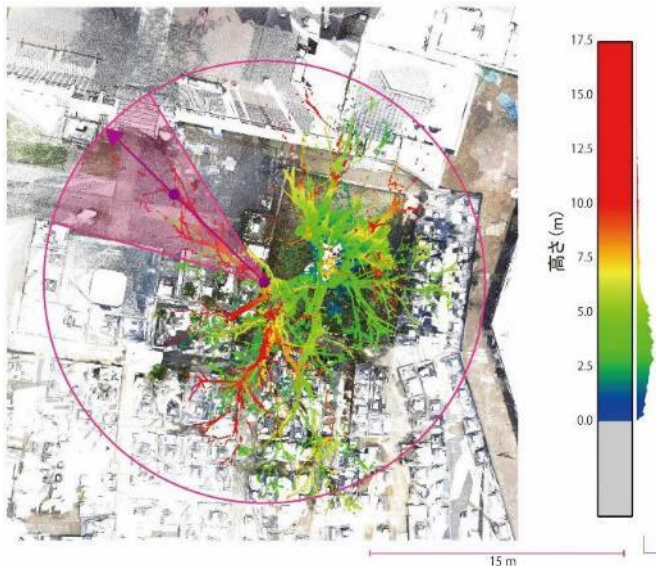


事例紹介：人が緑が共演する次世代環境の構築の取り組み。

地域の観光資源である天然記念物の保護事業への協力



3Dスキニングから正確な形状把握を行い天然記念物管理計画を作成しています。



- 対象樹種 イチョウ (雄株)
- スキャン日 2019年6月18日
- スキャナ Focus (Faro社)
- 解析ソフト CloudCompare
- 作業の流れ
 1. 樹木の3Dスキャン
 2. 枝葉の点群除去
 3. 診断野帳の作成
 4. 根元から幹と大枝の区分
 5. 被害位置図の作成
 6. 形状計測・耐風速の計算
 7. 推定落下範囲の図示
 8. コブラケーブリング設置位置図の作成

事例紹介：人が緑が共演する次世代環境の構築の取り組み。

エコルが会員企業として参加している一般社団法人街路樹診断協会における活動事例
2019年5月 国際シンポジウム開催：世界のアーバンフォレスト政策と樹木のマネジメント

都市樹木の診断についての国際的な潮流



Mr.Ian Shears
オーストラリア・メルボルン市
アーバンフォレスト・グリーン
インフラ部長



アーバンランドスケープやアーバン
オアシス・ビリティのマネジャーを
務め、昨年より退職に際し、
関わってきたプロジェクトや政策
は最先端事例としてオーストラリア
で高く評価され、アーバンフォレス
トや気候変動に対するランドスケ
ープ導入推進、グリーン政策について、
国内外で多くの講演を行っている。

Dr.Thomas Smiley
パトリック・樹木調査研究所上級研究者
クレムソン大学 客員教授



国際樹木学会 (International Society
of Arboriculture) が出版している技術
総書 (Best Management Practices)、
樹木診断総書 (The ISA's Guide
for Plant Assessment 10th edition) の
主たる執筆者。
米国植樹学会、樹木の気象被害削減
樹木調査総書、樹木被害の軽減などの
研究者でもある。

Mr.Yasuo Iizuka
国土交通省国土政策技術総合研究所
社会資本マネジメント研究センター
緑化推進室 主任研究員



1983年に入省後、当時の土木研究所
緑化研究室において公共緑化に関す
る調査研究に従事。その後、日本道路
公団に出席して道路緑地の緑化事業に
携わり、2001年より現職。
都市緑化に関する調査研究で、特に
道路緑地や公園緑地などの維持管理が
主な対象で多くの国際会議での発表に
携わる。著書多数。著者。

シンポジウムにおける主なトピックス

- ・ 地球温暖化に対しての都市のみどりの重要性
- ・ 緑の価値について市民との共有方法 i-Tree など
- ・ 市民との協働による樹木の調査
- ・ 都市樹木の根系保護に関する問題

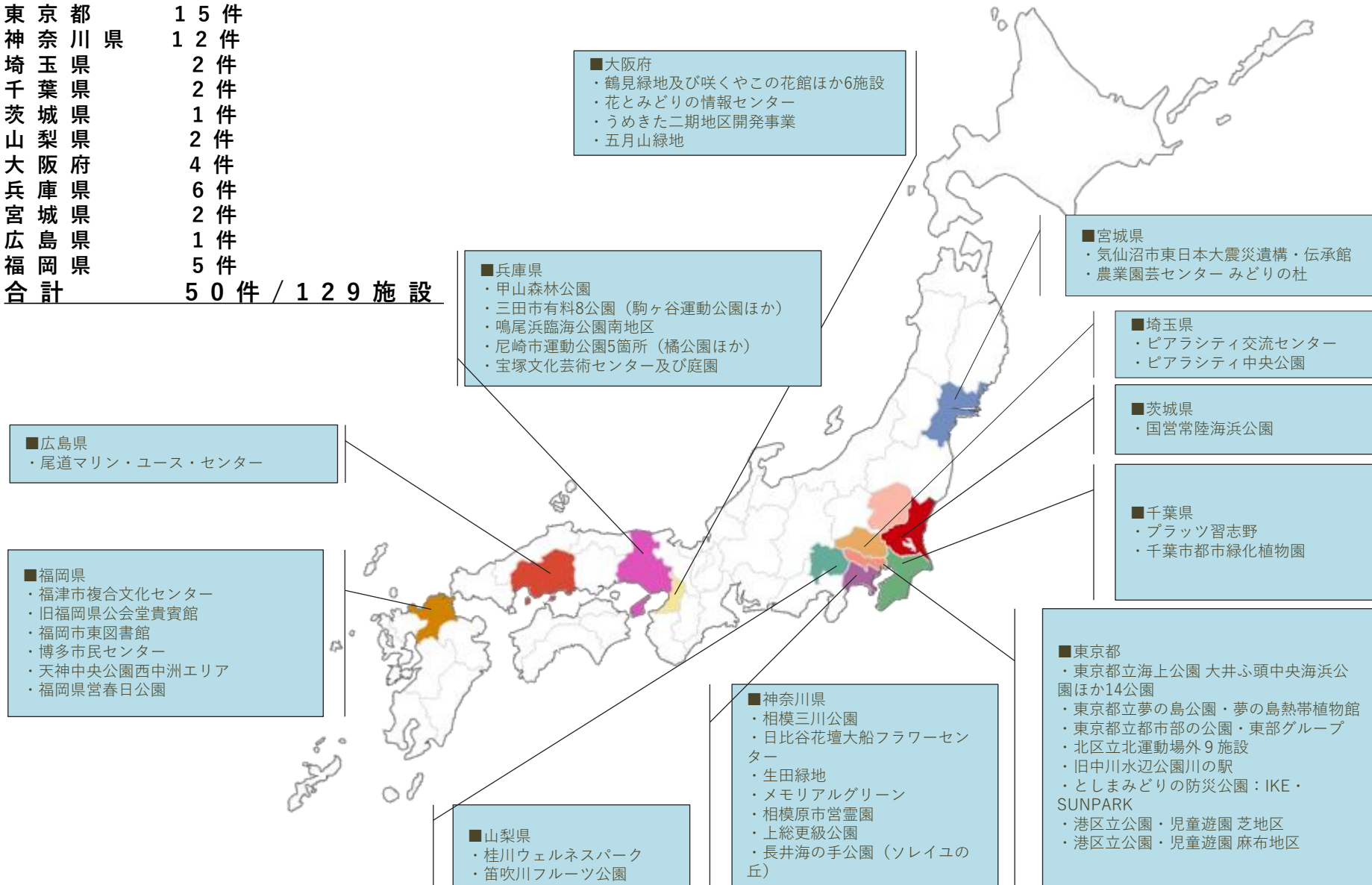
世界においても緑にお金をかけるために苦勞をしている！

■ ビジネスモデル紹介：PPP/PFI事業戦略

日比谷花壇グループ PPP/PFI施設の広がり

【全国契約件数】

東京都	15件
神奈川県	12件
埼玉県	2件
千葉県	2件
茨城県	1件
山梨県	2件
大阪府	4件
兵庫県	6件
宮城県	2件
広島県	1件
福岡県	5件
合計	50件 / 129施設



コミュニティビジネス



わらアート (せんだい農業園芸センター)



ハロウィン おばけカボチャ (夢の島熱帯植物園)



みどりの柱サマーイルミネーション
(せんだい農業園芸センター)
※Instagram投稿 (@hugnatsuaki)



鳩川沿 水仙球根植付 (神奈川県立相模三川公園)

「パークラボハウス」～市民が集まり「創造」「発信」「継承」していく拠点～

キーワード: 大屋根下の半屋外空間、地形を活かす、まちと公園のつなぎ目



地域の営み、生態系、情報とつながり、市民みんなで活動を育てゆく拠点

本公園は駅前にありながらも、豊かな地形と樹木に溢れた、都市のなかにおいて、貴重な空間として存在しています。また、近隣は豊かな居住エリアに囲われており、市民に長年愛されている公園です。私たちは市民に寄り添い、地域のあらゆる情報を収集し、みんなで考え、活動していくことのできる、地域のコミュニティ活性化の核となるような拠点「パークラボハウス」を提案します。公園の新たな「顔」を創り出し、日常に溶け込むまちの拠点とし、私たちの考えるPark-PFI事業では**収益性を重視した施設ではなく、市民のための拠点**を提案します。さまざまな要素に囲われたこの場所だからこそできる、エリア全体を巻き込み、発信していく施設として運営します。

公園をひらき、市民が集うパークラボハウスの位置計画

公園全体を見た時の公募対象施設の位置



パークラボハウスは、レンガ坂広場、芝生広場、遊びの広場に挟まれた公園の南西入口に計画することによって、それぞれのゾーンをサポートする役割を果たします。

平屋でアクセスしやすく、まちとつながる建物配置

表裏のないアクセス



日常的にひと通りの多いレンガ坂側に寄せて配置することで、通りに面して賑やかな風景を作り出します。また、**全面からアクセスすることができる**計画とすることで、公園に対して裏を作らない建築とします。

公園にみんなの日常的な居場所をつくる大屋根空間

大屋根下のイメージ



誰もが入りやすく集うことのできる大屋根空間を提案します。開放的な屋根下空間とし、公園の**エントランス(顔)**としての構えを作り、まちと公園の活動を緩やかにつなげていくことを目指します。

「パークラボハウス」～内部空間で行われる活動が外に染み出していく平面計画と魅力的な運営事業によって作られるみんなの居場所～

キーワード: 大屋根空間、地形を活かす、まちと公園をつなぐ

裏をつくらず、くつろぎを生み出す縁側空間



自然エネルギーを利用したスマートポール



いつも公園を見守るパークラボアテンダント



平面図: S=1/150



主園路からの視認性を高める通り土間



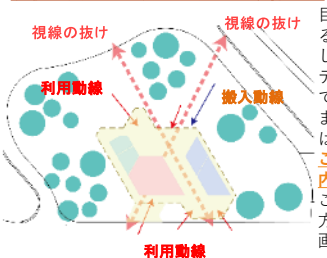
まちに開かれたホール



テイクアウトカフェを設置し、公園利用を促進

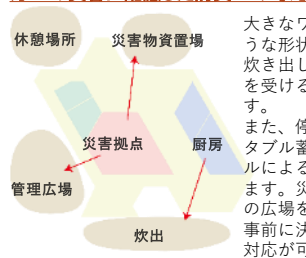


明快で安全な利用に配慮した動線計画



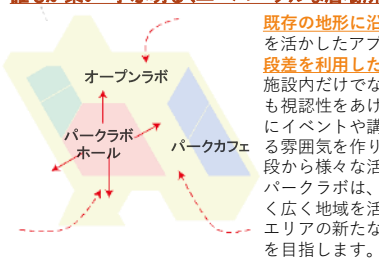
目的ごとに各諸室まとめることで、動線を明快にし、また管理・セキュリティも容易にすることができます。また、パークラボホールは透明な木製建具にすることで、レンガ坂と公園内双方に視認性を高めることで、施設と公園の両方を把握でき開放的な計画とします。

万一の災害に配慮した防災への考え



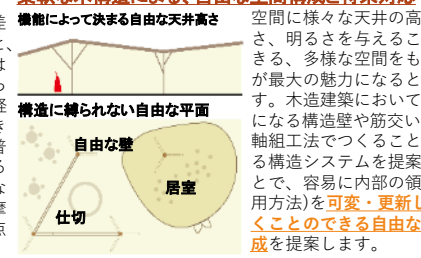
大きなワンルームとなるような形状を利用し災害時の炊き出しなどサポート機能を受けられることを可能とします。また、停電時に備て、ポータブル蓄電池や太陽光パネルによる補助照明を採用します。災害時、建物外周部の広場を何に利用するかを事前に決めることで迅速な対応が可能となります。

誰もが集い・学ぶ明るくユニバーサルな居場所



既存の地形に沿ってレベル差を活かしたアプローチ計画と、段差を利用した学びの空間は施設内だけでなく、周囲からも視認性をあげることで気軽にイベントや講座に参加できる雰囲気を作り出します。普段から様々な活動が行われるパークラボは、市民だけでなく広く地域を活性化させる多摩エリアの新たな顔となる拠点を目指します。

柔軟な木構造による、自由な空間構成と将来対応



機能によって決まる自由な天井高さ
構造に縛られない自由な平面
自由な壁
仕切
空間に様々な天井の高さや広さ、明るさを与えることのできる、多様な空間をもつことが最大の魅力になると考えます。木造建築において不自由になる構造壁や筋交いが無く、軸組工法でつくることが出来る構造システムを提案することで、容易に内部の領域(利用方法)を変えて更新していくことのできる自由な空間構成を提案します。

「パークラボハウス」～計画段階から考える市民のための環境教育という新たな視点～

キーワード: 大屋根空間、地形を活かす、まちと公園をつなぐ

建築の設計フェーズを教材と捉え、子ども達の学びの場として事業プロセスの透明化を図る

多摩の森を歩いてみよう



原木丸太を切ってみよう



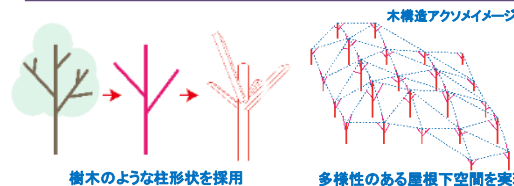
工事現場で遊んでみよう



私たちは、公共的な建築として公募対象施設を提案していきたいと考えています。公共建築の数々の経験において、市民の方々にどのように活用されるかはとても重要なこととなっていると実感しています。このことから、今回の設計計画では、**多摩産木材の利用を木の切り出しから、地域の子どもたちに見える化を図り、設計行為自体を教材財産**として価値のあるものととらえ、積極的に発信していくことを提案したいと考えています。

様々な市民活動をサポートし、SDGsに特化した新しい環境教育が日常化する大屋根下の提案

市民が誇りに思う、ここにしかない材料と新しい木構造計画

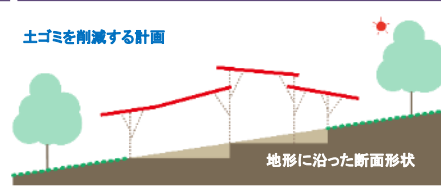


樹木のような柱形状を採用

多様性のある屋根下空間を実現

多摩産材を適材適所に利用し、コスト重視に偏重せず、この場所ならではの木構造を提案することで、市民が誇れる建築を目指します。構造原理に立脚した合理的な架構であり、同時に変化に富んだ新たな木造空間を創出します。

既存地形を活かした断面計画で土工事を削減

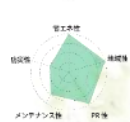


土ゴミを削減する計画

地形に沿った断面形状

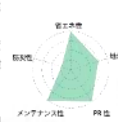
現在の公園の地形を利用した断面計画とすることで、土工事を極力減らすことを可能とします。土工事の削減は**コスト削減、工期短縮**だけでなく、**公園の外に廃棄残土を極力出さない工夫**を最大限行います。

1.自動閉窓



屋根に開けられたハイサイドの窓を農業用の汎用システムである自動閉装置を設けることで、温度・雨・風の変化に対応しながら建物の熱環境を自動で制御します。機械に頼らない自然換気を行うことでランニングコストの大幅な削減が期待できます。

2.雨水利用の工夫



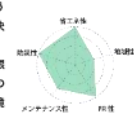
大屋根に降る雨水をタンクにため、冠水や周辺のガーデンに積極的に利用します。一般的な地下ピットによる雨水の貯め方ではなく、地上に簡易なタンクとすることで見える化を行い、教育システムとしても利用します。

3.適材適所な草屋根



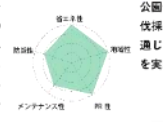
部分的に草屋根(屋根緑化)を行うことで、大屋根下の居住環境を快適に保ちます。平家で低い建築だからこそ、屋根を見ることができ、環境教育のPRに繋がります。また、周辺環境への配慮にも繋がります。

4.太陽光パネル+蓄電池



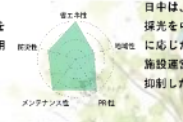
スマートポールに太陽光パネルを設置した照明、蓄電池を併せ持つことで、太陽光発電による自然エネルギー利用の電気が有効活用されます。蓄電池はポータル式のものとすることで、災害時はもちろん、通常時のイベントに対応します。

5.公園伐採木の循環活用

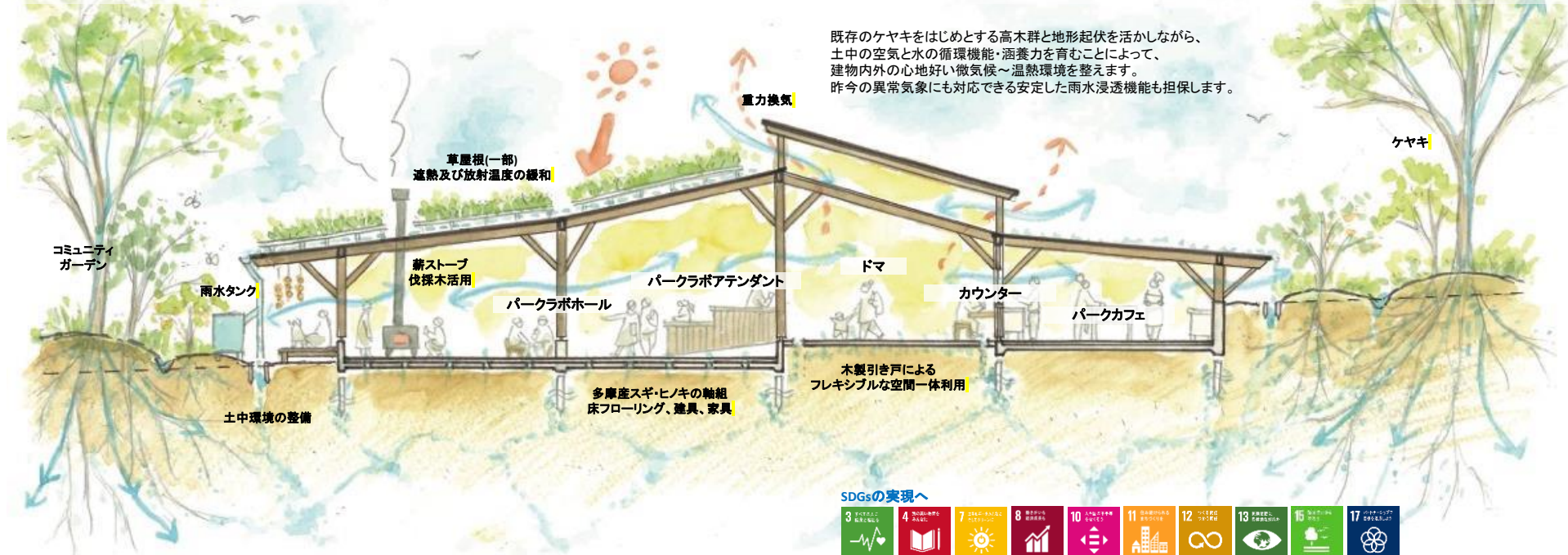


公園伐採木の循環利用
伐採木によるベンチやマキ作りを通じて市民と地域資源の循環活用を実施します。

6.タスクアンビエント照明



日中は、ハイサイドライトからの採光を中心に、場所ごとの使い方に応じた照明を設置することで、施設運営でのランニングコストを抑制した照明計画を行います。



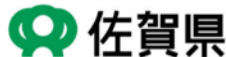




2021.09.28 UPDATE

9月28日(火)有田町と進出協定を締結。有田焼D2C化プロジェクトを始動!

当社は、9月28日(火)に有田町との進出協定を締結いたしました。
2021年中にサテライトオフィスを開設し、有田焼事業者様のECサイト制作、運用などをサポートする事業などを展開していきます。

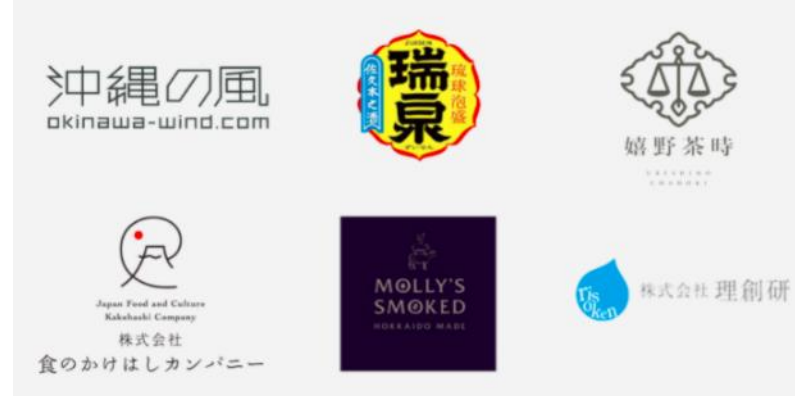


日本初! 温泉旅館内に会社を設立

嬉野温泉「和多屋別荘」への弊社サテライトオフィス設置に伴い、佐賀県嬉野市との立地協定締結式を開催。「地元人材の積極起用による雇用促進・他地域との事業連動」に貢献し、地方創生の新事業モデルを創出。



サテライトオフィス



レベニューシェア型のリブランディング・販路拡大・PRを実現
県・市・地銀と連携し地域の名産品を作る事業者をサポート。商品のブランディング、販売ルートのサポート、EC販路強化、パブリシティによるプロモーション活動全般をサポートし、ECサイトのレベニューシェア事業を行う。

BURGERS TOKYO

“BURGERS CAN CHNGE THE WORLD”を掲げ2019年10月に東京下北沢に誕生。
バーガー1色につき1食分の給食費30円をNPO団体を通じてアフリカ・ケニアのシープケアセンターの子供たちの支援を行っています。



BURGERS CAN CHANGE THE WORLD

私たちの日常の暮らしや行動が支援につながる「1食1支援」のドネーション（寄付）ブランドです。
オープンの2019年10月～2021年9月末までで、合計57,003個のハンバーガーを販売し、

- ①35,670給食支援（シープケアセンター）
- ②1,000世帯に約30,000膳分のお米（東京都ひとり親家庭）を支援いたしました。

共感から生まれるコミュニティ

1食1支援のドネーション活動。加えて地域に根差したブランド形成。



「Fan Network」

ART



ART BY MHAKE



GALLERY BY NAOHIRO YAKO

BOTANICAL



シンボルツリー

ECO FRIENDLY



廃材や中央をリユースした内装や家具。サステイナブルなメッセージを発信。

MUSIC



MUSIC EVENT IN 下北沢

下北沢の一番街商店街の中で、感度の高い若者、意識の高い大人たちや、商店街を毎日の暮らしの中にご利用されている地元の方々とともに、ブランド店舗を交流拠点/プラットフォームとしてつなげていきます。



受託事例の紹介：大規模花修景の実施



国営常陸海浜公園でのみはらしの丘その他でのネモフィラ、コキア、チューリップ、スイセンなどの「配植計画」、「栽培管理」「景観計画」を行っています。世界中から年間300万人が集まる、最も有名な花修景の公園です。

受託事例の紹介：長井海の手公園ソレイユの丘



Park-PFI（公募設置管理制度）と指定管理者制度を組み合わせた事業の交流拠点機能拡充事業。
23年4月のリニューアルオープン予定。

受託事例の紹介：としまみどりの防災公園（愛称 IKE・SUNPARK）

公園が街を変える！「池袋駅周辺4公園」の整備 Changing the cityscape through parks - Development of "four parks around Ikebukuro Station"

国際アート・カルチャー都市構想の基本コンセプト「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」の実現に向けて、2020年東京オリンピック・パラリンピックまでに、池袋駅周辺の4つの公園を整備します。合計面積約30,000㎡となる4公園それぞれの特色を活かし、土日祝日には誰もが参加できる多彩なイベントを随時開催します。各公園を結ぶ歩行者空間や案内サイン等も充実させ、エリア全体の回遊性を高め、歩いて楽しく、訪れるたびに新たな発見に出会えるまちづくりを展開していきます。また、民間とのコラボレーションを拡大し、清潔なトイレをはじめ、誰もが安心して利用できる公園施設の管理・運営を進めていきます。

Toward the realization of a "theater city" with the entire city as the stage, and where anyone can play the leading role," which is the basic concept of the vision of Toshima as the International City of Arts & Culture, four parks around Ikebukuro Station will be developed and completed by the 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games. Covering a total surface area of 30,000㎡, the four parks will harness their respective characteristics, and colorful events that anyone can participate in will be held from time to time on weekends and national holidays. Efforts will be made to enhance the ease of going around the parks, such as by creating pedestrian spaces that connect each park and improving information signage, and the area will be developed to make walking more enjoyable, offering new discoveries every time people visit. Collaboration with the private sector will be expanded to promote management and operation of park facilities that anyone can use comfortably, beginning with clean toilets.

2019年 リニューアル

池袋西口公園 [3,123㎡]



ふくろ祭り、フラフェスタ、フェスティバル/トーキョーなど多彩なイベントが開催される池袋西口公園。駅直近の立地を活かし、公園全体を屋外劇場としてリニューアル。隣接する東京芸術劇場と連携し、池袋西口エリアの顔となる文化・にぎわい拠点に生まれ変わります。

An exciting range of events is held at Ikebukuro West Gate Park, including the Fukuro Matsuri Festival, Tokyo Hula Festa, and Festival Tokyo. By harnessing its position near to the station, the entire park will undergo renovation to become an outdoor theater. In cooperation with the neighboring Tokyo Metropolitan Theater, Ikebukuro West Gate Park will be reborn as a bustling cultural hub that is representative of the West Exit area of Ikebukuro Station.

2016年4月 リニューアル

南池袋公園 [7,811㎡]



青空が広がる芝生広場が大人気の南池袋公園。2016年11月初開催の「大田楽いけぶくろ絵巻」をはじめ、仮設の野外ステージ、能舞台を活用した新能、日本舞踊など、日本の伝統芸能を発信していきます。

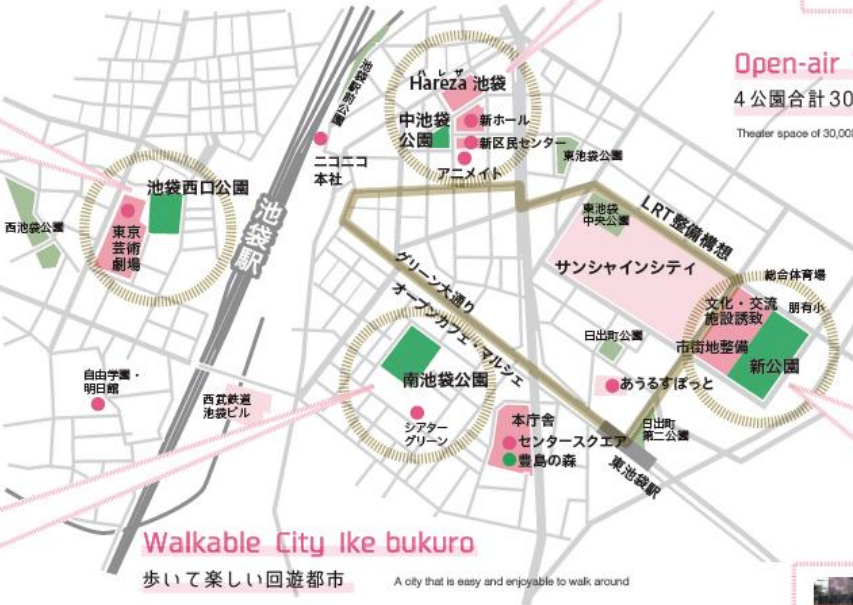


Minami-Ikebukuro Park, with its open grassy fields and wide blue skies, is very popular among visitors. This park focuses on spreading traditional Japanese performing arts, including the Daidengaku Ikebukuro Emaki held in early November 2016, as well as Takiguchi and Japanese dance performances that make use of temporary outdoor stages or Noh stages.

Dramatic City Ikebukuro

まち全体が舞台の劇場都市

A "theater city" with the entire city as the stage



Walkable City Ikebukuro

歩いて楽しい回遊都市

A city that is easy and enjoyable to walk around

2019年秋 リニューアル

中池袋公園 [1,786㎡]

Renovations completed by the fall of 2019
Naka-Ikebukuro Park



As a hub that aims to transmit "Ikebukuro, the holy land for anime" to the world, efforts will be made to organize events in collaboration with the eight theaters of Hareza Ikebukuro, which will have its grand opening in the summer of 2020. These events will be centered around anime and cosplay.

「アニメの聖地・池袋」を世界に発信する拠点として、アニメやコスプレ関連イベントを中心に、2020年夏にグランドオープンする「Hareza (ハレザ) 池袋」の8つの劇場と連携したイベント展開を図っていきます。



Open-air Theater Ikebukuro

4公園合計30,000㎡の劇場空間

Theater space of 30,000㎡ extending across the four parks

2020年春 オープン

造幣局跡地の新公園(仮称) [17,000㎡]



2020年春、防災機能を備えた区内最大面積の公園が誕生します。同時に誘致する文化・交流施設との連携も視野に、屋外対応可能なコンベンション、ペットイベント、スポーツイベントなど、フラットな広場を活用した様々な野外イベントを展開していきます。



The flat and open square, which is suitable for outdoor activities including conventions, pet events, and sporting events.

受託事例の紹介：としまみどりの防災公園（愛称 IKE・SUNPARK）

豊島区は「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」に選定されています。

池袋駅周辺の4公園を核にした、まちづくり

- 個性ある4つの公園の運営団体（エリアマネジメント組織）を連携させることで「新たな交流、表現、にぎわい」を創出 [社会・経済]
- 電気バスで各拠点を回遊、サポーター企業と共同イベント実施 [環境・社会・経済]



2020年6月末グランドオープン
Hareza(ハレザ)池袋

2019年11月 オープン
■ 池袋西口公園 (愛称: グローバルリング)
本格クラシック演奏などが可能な野外劇場。
● 公民連携の手法
・東京芸術劇場等と連携してイベントを展開。
・民間カフェ収益の一部等を公園運営費へ。

2016年4月オープン
■ 南池袋公園
芝生が一面に広がる区民、来街者のオアシス
● 公民連携の手法
・南池袋公園をよくする会によるイベント等の実施。民間カフェ収益の一部等を運営費へ
※災害備蓄倉庫や1000台の地下駐輪場も併設

2019年9月 オープン
■ 中池袋公園
マンガ・アニメの聖地。「Hareza池袋」内の公園。
● 公民連携の手法
・アニメイト等の周辺企業と連携しアニメコスプレイベント等を展開。開発者（東京建物、サンケイビル）がエリアマネジメントを組成し、施設使用料等を運営費へ。

2020年7月 オープン予定
■ としまみどりの防災公園 (愛称: イケ・サンパーク)
あらゆる防災機能を有する区内最大面積の公園。
● 公民連携の手法
サンシャインシティと連携したイベント、民間カフェ運営、マルシェ運営等を実施する予定

2020年7月 オープン予定
★としまキッズパークも同時オープン
小さな子ども専用の公園。インクルーシブの概念も取り入れ、誰もが一緒に遊べる公園へ。

・民間によるバス運営
・災害時は非常用電源としても活用
・自動運転も実装中

受託事例の紹介：としまみどりの防災公園（愛称 IKE・SUNPARK）

こんにちは
はじめまして

イ
ケ
バ
ス **IKE BUS**

です！



図説 IKEBUSは常に換気して走行しています

IKEBUSの換気対策

車両には片方5つずつの大きな窓が付いています

車両後方の車いす乗降リフトの上部は、窓ガラスが無く走行時もしっかり換気することができます。（※雨天時はロールスクリーン）

車内は両サイドの窓を開放でき常に換気した状態で走行します

■地域創生事業ビジョン

「市民参加による花と緑溢れる街づくり新世代戦略」

「みどりの価値」の見える化への挑戦。

公園利用者の行動特性と利用資源に関する研究

— 東京都立猿江恩賜公園におけるモデル調査 —

Research on Behavioral characteristics of park users and usage resources
: Model survey at Sarue-Onshi Park, Tokyo

高橋和歌*・上杉哲郎*・池田龍仁**・竹内智子***

Kazuyuki TAKAHASHI*・Tetsuro UESUGI*・Ryoto IKEDA**・Tomoko TAKEUCHI***

Abstract: Parks and green spaces in cities are now required to be comfortable as well as the quantity and quality of greenery. With COVID-19 as an opportunity, it is being reviewed as having a social role as a place for maintaining and improving health, fostering local communities, and urban activities. This is a preliminary report of the model survey at Sarue Onshi Park in Tokyo as part of the joint research between Hibiya Amemis Corporation, and Chiba University. This research was conducted to obtain basic knowledge on how the park is used from the behavioral characteristics of park users and to establish the survey method.

Keyword: Urban Park, behavioral characteristics of park users, usage resources, COVID-19, Tokyo
都市公園、行動特性、利用資源、新型コロナウイルス感染症、東京

1. 背景と目的

これまでの都市のみどりの政策は、公園・緑地の面積を増やす、レクリエーション利用を促進する、自然・生物多様性を保全することなどを目指し、1人当たりの公園面積や緑被率などを主な指標として評価がなされてきた。

2017年6月に国土交通省は都市公園法の一部を改正¹⁾し、都市・地域・市民のために緑やオープンスペースが持つ多機能性をより引き出すこととした。2019年6月には「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」から、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」として今後のまちづくりの方向性が提言された²⁾。これを受けて国土交通省は、2020年3月に「まちなかの居心地の良さを測る指標（約）」³⁾として、多様な人材が集い、滞在し、交流することを公園緑地も含む公共空間に求め、評価する新たな指標を公表した。

一方で、2019年12月に新型コロナウイルス感染症（以降COVID-19とする）の最初の症例が中国の武漢で確認され、瞬く間に世界中の都市に感染が拡大し、都市封鎖や渡航制限、移動制限などが実施されている。これにより、これまで都市のメリットであった、集まり交流することがマイナスになるという価値観の転換が起きている。

日本国内でも2020年1月頃より感染が拡大し、4月末には首都圏をはじめ全国各都市で第一回の緊急事態宣言が出されるなど、人々の移動が制限されるようになった。都市公園も、一部閉鎖されたものもあったが、2020年8月、国土交通省がCOVID-19感染下においても心身の健康のために公園が大事であり、利用をすすめるべきとする方針⁴⁾を示し、公園管理者は感染対策をしつつ、公園利用をすすめることが求められている。

このように都市における公園や緑地は、緑の量や質だけでなく、居心地の良さが求められるようになり、COVID-19の感染拡大を契機にさらに健康の維持増進、地域のコミュニティ形成、身近な

都市活動の場などの「ここにやさしい」社会的な役割をもつものとして見直されている。今後はCOVID-19などの感染症への対応を見据えて、都市の公園緑地が実際に果たしている「ここにやさしい」社会的な役割を把握・評価し、その価値を最大限発揮できるよう、まちづくりに反映していく必要がある。

COVID-19の対策下における都市の公園の利用実態については、携帯電話情報などBIG DATAを用いた人前に基づいたもの⁵⁾、ラインセンサーデータや行動履歴調査によるもの⁶⁾、首都圏の広域地にある公園緑地において、公園の規模や施設内容等による利用者の属性・行動特性の違いを調査したもの⁷⁾などがある。また、利用者行動を把握する手法としては、前述の国土交通省の指標案⁸⁾がある。しかしながら、COVID-19の感染拡大下の社会的な公園緑地の役割に着目し、感染拡大下の利用者の行動特性の詳細を把握、考察した研究はまだ少ない。

櫛日比谷アメニスと千葉大学は、「ここにやさしい新しいみどりの価値創造」という題目で、みどりの価値について、評価システムの構築や、みどりづくりを進める方法論の構築を研究目的とした共同研究契約を2021年4月に締結した。本報は、この共同研究の一環として東京都立猿江恩賜公園を対象に、利用者の行動特性からどのように公園が利用されているか基礎的な知見を得ることと、その調査方法を確立するために実施したモデル調査結果の速報である。

2. 研究方法

2-1. 対象地の概要

都市における公園利用者の典型的な利用行動の観点を把握するため、多様な公園施設（ベンチ、四阿、遊具など）、みどり（植物だけでなく、水辺などの自然的な環境も含む）を「利用資源」と定義し、利用者がどのように利用資源を利用しているか観点を把握し、それを簡便かつ正確に調査する手法を確立するため、モ

* 非会員 株式会社日比谷アメニス（Hibiya Amemis Corporation）

** 非会員 千葉大学園芸学部（Chiba University） *** 正会員 千葉大学大学院園芸学研究院（Chiba University）

抜粋：公園利用者の行動特性と利用資源に関する研究 - 東京都立猿江恩賜公園におけるモデル調査 - （高橋和歌・上杉哲郎・池田龍仁・竹内智子）

研究の背景と目的

2021年4月 櫛日比谷アメニスと千葉大学が共同研究契約を締結

【目標】ここにやさしい新しいみどりの価値創造

— afterコロナを見据えSDGsを達成するみどり —

SDGs社会レイヤーへの寄与/居心地の良さ/コミュニティの形成/Walkable/Well-Being等の観点に着目

これまでの都市のみどりは、「公園・緑地・緑化面積を増やす」「レクリエーション利用を促進する」「既存の自然・生物多様性を保全する」などが取り組まれてきた。2020年から世界中で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡大し、人々は移動が制限され、都市に集まり交流することがマイナスになる、という価値観の転換が起きている。

このような中で、都市のみどりは、「健康の維持増進」「地域コミュニティ形成」「身近な都市活動の場」など、「ここにやさしい」社会的な役割が見直されている。今後は、Afterコロナを見据え、都市における公園緑地の「ここにやさしい」価値を評価し今後のみどりのまちづくりに反映していく必要がある。

①みどりの価値の新たな定義と評価システム構築

都市における新しいみどりの価値を再定義し、フィールドで検証しながら、みどりの価値の評価手法を構築を目指す

②ここにやさしいみどりづくりを進める方法論の提案

都市公園の管理、Park-PFI、民間の公開空地における具体的な価値を高める方法論の提案を目指す

③検証プロセスや研究成果の情報発信

各フィールドにおける検証プロセスや研究成果を学会発表やセミナーの開催などにより積極的に情報発信する

目的

みどりの価値について、評価システムの構築や、みどりづくりを進める方法論の構築する。

利用者の行動特性から、どのように公園が利用されているか基礎的な知見を得ること、その調査方法を確立することから取組む

東京都立猿江恩賜公園において、モデル調査を開始した。

「みどりの価値」の見える化への挑戦。

まとめと考察

4月25日～5月5日までの猿江恩賜公園における利用者行動と利用資源について

日常的な利用は、散歩やランニングが多く、その大半は大人と高齢者
休日の午後に家族連れでの利用が増加した。

高齢者のベンチ利用割合が高いが、休日の利用が極端に減少した。



社会実験 イス・レジャーシート貸出しの様子 2021.10/30-11/3
アンケートの実施、GPSロガーでの位置情報取得

●平日利用について

一人利用の大人と高齢者や周辺の保育園、未就学児の親子連れが多い。

●休日利用について

休日の午後に利用者数が増加する。

●利用行動について

一人利用の多くは、散歩やランニング、休憩が多く、親子連れの多くは、遊びや休憩であった。

●利用資源について

園路は健康維持・増進の目的で利用されており、芝生や広場は休憩や遊びなどコミュニケーションの場として利用されていた。

ベンチは休憩での利用が大半であるが、高齢者の利用が平日に偏り、休日には極端に少なくなる傾向が特徴的であった。

小中高生の友人同士はバスケットゴールの利用が多かった。

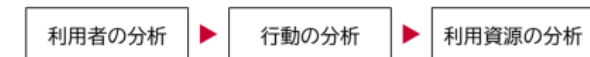
浮かび上がった潜在ニーズ

- ・休日にはベンチが利用者数に対して不足しており、高齢者は来園しづらいのではないかと？
- ・芝生や広場での休憩や遊びはシートを広げて、子供を見守るケースが多く、緑陰を好んで場所取りしているのでは？

調査票

調査票は、事前にヒアリングや現地踏査を行い、公園の特徴を抽出する事で、調査員が迷わず、時間をかけないで調査する事が可能であった。

データ分析



公園利用に関する潜在ニーズの仮説立ての解像度が上がった。

現地調査と全天空写真調査の誤差

調査期間	目視調査(a)		全天空写真調査(b)		差(b-a)	
	計測数	人数	計測数	人数	計測数	人数
4/19～25日	701	1,253	700	1,345	-1	92
5/1～5日	701	2,343	1,043	2,160	342	-183
計	1,402	3,596	1,743	3,505	341	-91
集計・データ化 (時間)	目視調査: データ化: 作業時間:	24h 12h 36h	目視調査: データ化: 作業時間:	8h 18h 26h	目視調査: データ化: 作業時間:	-16h +6h -10h

以上より、17.4ha、年間利用者数213万人の猿江恩賜公園において、目視調査と全天空写真調査を行い、計12日(平日5日、休日7日)、頻度は午前午後2回、計3,505名の利用者行動を、目視調査 2名36時間、全天空写真調査 2名26時間で把握することができた。

メリット

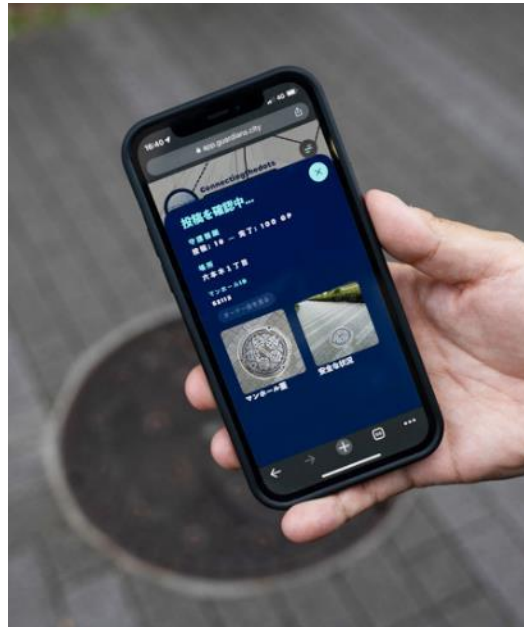
- 短時間で調査が可能となった。
- 調査者の負担軽減
- 調査からデータ化まで時間短縮される

デメリット

- 利用者の関係性が把握しづらい。
- 現在、全天空動画調査と目視調査との差を確認中



事例の紹介:ゲーミフィケーションアプリと地域課題解決の可能性



■東京23区 現在位置登録&投稿 ■全国マンホール探索 ■全国写真レビュー

運営会社は市民参画型のインフラ情報プラットフォームの構築・提供・運営を行うNPO。

人口が減少している日本において、老朽化が進むインフラにかかるメンテナンスコストの大きな負担が未来世代に転嫁されるのは、構造的に避けられない。この現状を打開すべく、ゲーミフィケーションとデータサイエンス技術を活用し、インフラを利用する市民が主体的に参画する形でインフラ産業の革新を進めることに挑戦しているという。

生活者コミュニティアプリの活用による市民参加型での地域課題解決①



生活者コミュニティアプリの活用による市民参加型での地域課題解決②



市民参加型のグリーンサステイナブルなまちづくり・社会づくり。



市民に身近なアプリを起点に、人々のコミュニティを育み、連携を促し、感謝経済が広がる社会へ。

まとめ。

花と緑が溢れ、その価値が市民に見えて、
市民参画によって価値が高まるまちづくり



Our dreams will continue.